

# エコプロダクツ2002

環境就職・進路相談会

# 相談会実施報告書

## CONTENTS

### 序にかえて

イメージだけが一人歩きする環境就職  
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

### 報告・評価

座談会「環境就職・進路相談会を  
振り返る。」・・・・・・・・・・・・・4

・シンポジウム「企業の環境部って  
なに?!」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

実施報告 アンケート集計結果

・環境就職・進路相談会・・・・・・・・・・12  
アンケート集計結果「参加者」  
アンケート集計結果「カウンセラー」

### 次回予告

2002.12.7

エコ・リーグ

www.eco-2000.net



# 環境と 就職を 考える。

## イメージだけが一人歩きする 環境就職

序にかえて 事務局長  
小林功英  
(日本私立大学協会職員)

環境就職、という言葉が正しいかどうか、今一度じっくりと考えてみよう。

近年、徐々にではあるが環境問題に携わる仕事に興味を持つ学生が増えてきた。では「環境問題に携わる仕事」とは具体的には何なんだろう。

ここで、まず思い浮かぶのが、「環境ビジネス」という言葉だ。

環境ビジネスは、環境配慮型のモノやサービスを売ることであり、その本質的はビジネスである。「環境配慮型」だから何でも売れる、などと思ったら大間違いだ。環境に良いからと言っても、取引先や消費者ニーズを満たしていなければ売れないのである。ちなみに、日本のグリーンコンシューマーはまだ数%と言われ消費者市場はまだまだ狭い。ただし、新しい法律が出来れば、それだけ新しいビジネスも増える。どれだけ先見性があるかも、環境ビジネスを行う上での重要なファクターになっている。

さて、次に思い浮かぶのは、「環境経営」という

言葉ではないだろうか。

環境経営は、基本的にどんな企業、組織でもできる。簡単に言えば、経営 オフィスや工場での生産活動など において、ムリ・ムダ・ムラをなくすことだ。そのマネジメントシステムとして導入されるのがPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルで、ISO14001の要求事項にもなっている。環境経営に関わるには・・・このISO14001の仕組みを熟知していることが前提となる。

これらの具体的な取り組みが、各人の「仕事」となる。自動車メーカーを見てみよう。環境ビジネスで考えるのであれば、低公害車の販売ということになる。まず、低公害車を作らなければならない。ここでの「仕事」とは、環境配慮設計をする設計部、ハイブリッドや燃料電池の工学的仕組みを開発する開発部、そして環境負荷の少ない資材を調達する資材部などである。彼らに求められる能力は何だろうか。温暖化や大気汚染の仕組みを知っていることが

## 当日タイムテーブル

### 第一部 シンポジウム「環境部ってなに？！」

1000	参加者受付開始
1030	主催団体挨拶 / 注意事項
1035	第一部 シンポジウム「環境部ってなに？！」
1155	終了

### 第二部 環境就職・進路相談会

1230	参加者受付開始
1300	第二部の注意事項
1310	第二部 環境就職進路相談会
1700	終了

彼らの能力であろうか？否。彼らに求められるのは、たぶん「環境以外の専門知識と技術」である。電気自動車を作るのに必要な知識や技術は、いかに丈夫で軽い素材を開発するかや効率的に電気を貯める装置開発力であったりする。ぶっちゃけた話、環境問題のことなど知らなくても、電気自動車は開発できる。工学的専門知識や技術があって、初めて環境の知識が活かされる。すなわち、環境問題に携わる仕事のビジネス編で必要なのは、専門性を模索することだ。営業や広告によって、環境配慮が他商品の市場を開拓することでも良い。文系・理系構わず必要なのは「自分の専門性」である。

続いて、環境経営であるが、とりあえず地道に職場でエコ活動をするのが近道だ。これも立派な「環境問題に携わる仕事」だ。逆に言えば、環境経営に関して、関係のない企業などないのだ。コピー用紙の削減や節電・節水を職場で行うことも一つの環境就職と心得よ。企業の環境部署は、そもそも一年目から配属されることはない、とシンポジウムのパネリストは言う。

さて、多くの学生はこうイメージしているのではないか。トヨタ＝エコ就職。自然体験インストラクター＝エコ就職。環境省＝エコ就職。環境NGO＝エコ就職。ソニー＝エコ就職。バカ言っちゃいけないよ。何故それがエコ就職になるのか、もっとじっく

りと考えて欲しい。環境と名のつくハコの中にあることがあなたのエコ就職なのですか？環境やっていない企業をエコにすることは、エコ就職ではないのですか？結局、入るときではなく、入った後の自分の行動がエコなのか、そうではないのかが決め手になるのではないですか？環境ビジネスを行っている会社はエコ就職かもしれない。しかし、あなたがその部署に回されるかは分からない。また、それがエコ就職で、こちらを選んだとしても、相手は選んでくれるとは限らない。だって、あなたに何ができるんです？と、きつく書いたが、そうまで言う理由は3つある。1、環境は重要な経営戦略であるので新人のペーパーがいきなり関わらせてくれない。2、異動があるので、ずっと環境部署にいられるわけではない。3、環境企業と言われつつも、人事は意外と環境意識が低いので、「環境」と言うとむしろ落とされる。ちなみに、中小企業やNGOでは、即戦力が求められる。新人をじっくり育てている時間も金も人もないからだ。

そうはいつでも、である。やはり、環境問題を扱いたいと考える学生には頑張ってもらいたい。本企画である就職相談会では、真剣に「環境就職」を考えている学生を応援しているし、これまでも応援してきた。参加することで、少しでも具体的な方向性が見えていただければ幸いです。

# 報告・評価

## 座談会「環境就職・進路相談会を振り返る。」

本企画に携わったスタッフ数名が、後日再び集まった。準備や当日の報告・評価を行い、次以降の知識とするためである。ここでは、その座談会の内容を掲載する。

竹内寿浩（実行委員長）  
 小清水宏如（エコリーグ担当理事）  
 小林功英（事務局長）  
 飯塚知子（シンポジウム担当）

小林（司会）：去る12月7日に、産業環境管理協会・日本経済新聞社主催「日経エコプロダクツ2002」（場所＝東京ビッグサイト）内で開催されました、当委員会企画の「環境就職・進路相談会」について反省を兼ねて振り返ってみたいと思います。

企画準備は、三ヶ月前の9月末よりスタート、スタッフは大学生は4人、社会人6人でした。ミーティングは全体で4回、各企画ではそれぞれ3回程度行われました。メールのトラフィックは、9月3通、10月19通、11月175通、12月81通（企画前までの1週間）でした。その他、電話による準備なども含めて行われました。

また、関西でも同じ日程で環境就職・進路相談会を開催しましたので、参加希望者が逆に申し込んだりと、少し混乱する場面も見られたようです・・・。

当日は、午前中にシンポジウム、午後に相談会が行われました。

さて、まずは感想をざっくりばらんにどうぞ。

総じて、成功したのか、失敗したのか

竹内：当日スタッフの中では、成功したという声が多

かったようです。参加者アンケートからみても、おおむね満足していただけたのではないのでしょうか。事前の段階で、定員200名弱の部屋に、想定限界人数以上の申し込みがあったときはどうしようかと思いましたが。（笑）

成澤さん（エコプロダクツの担当者）からも、「すごい人が集まりましたね」と好印象でした。日経とはwin&winの関係を築けたと思います。

小林：来年もよろしくって言っていましたよ。続いて、小清水さんはどうでしょうか。

小清水：私も全体的に成功だと考えています。特に今回はカウンセラー一人一人のプロフィール集を充実させ、どんな仕事内容で、一日をどのような形で仕事をしているのかなどまさに「仕事内容」にスポットをあてて、紹介できたことですね。このプロフィール集はこれまで構想はありつつもなかなかできませんでしたが、参加者である学生みなさんにしっかりとした情報が提供できたことで、顧客満足が高められた企画であったと考えています。

飯塚：私はシンポジウムの担当でしたが、ねらい通りに進行することができて良かったです。パネリストの三方も、満足されていたようです。それと、司会の田中さんには本当に感謝しています。問題点を整理して、テンポ良く進めて下さいました。

小清水：こちらが言いたかったことを全て言ってもらえたって感じでしたね。

小林：あれで、田中さんにホレましたね（笑）。会自体の進行についてはどうでしたか？これは、竹内さんに聞いたほうがいいかな。

竹内：はい、大きな混乱はなかったと思います。実際には多少のトラブルもありましたが。しかし、それらの問題に対してはスタッフ全員が迅速に対応し、致命的なミスにはならなかったと思います。

学生への認知度もアップしたでしょうし、個人的には

### 当日参加人数

- ・シンポジウム 168名
  - 事前申込者 117名
  - （事前受付総数171名、68.4%の参加率）
  - （当日参加者 51名）
- ・相談会 202名
  - 事前申込者 111名
  - （事前受付総数148名、75.0%の参加率）
  - 当日参加者 91名



楽しくて良い思い出が出来ました。

小清水：それは、一番大切なことですね。

### 目的は達成されたか

小林：さて、本企画の目的の達成度について伺います。シンポジウムでは、環境部の仕事を知ると共に、環境部への配属の厳しさや環境部だけが環境の仕事をする場所ではないことを知ること。相談会では、社会人が大学生の悩みになり、就職活動や仕事のイメージを高めてもらい、自分の進路の参考にしてもらおうことでした。アンケートを集計した、飯塚さんなどどうでしょうか。

飯塚：「満足だった」との意見が多かったです。また、「印象に残った言葉は」という欄においては、「一年目から環境部には配属されない」など、こちらのねらい通りの言葉を書いたものがほとんどでした。アンケートから判断するのであれば、目的は達成されたと考えられるのではないのでしょうか。

小清水：話は変わりますが、多くの学生は「企業の環境対応はただの宣伝効果を狙っているのではないか」というニュアンスの疑問を抱えていますよね。

小林：そうですね。この疑問については、答えがどうであれ、学生の就職には関係がないので、今回はわざと外していましたが……。ただ、普遍的な質問ニーズがあるようであれば、メインテーマにしないまでも、補足的にディスカッションに取り入れても良いと思います。

小清水：そうですね。毎回上がってくる質問だし……。

小林：よくある質問はホームページに載せても良いかもしれませんがね。ところで、参加者の数値目標についてはどうですか？

小清水：シンポジウム180人程度、相談会は150人程度を目標に広報を行いました。結果は十分に達成できました。

### ターゲット設定はどうだったか

小林：ただし、ターゲット設定は、結果的には曖昧になりましたね。通して遵守できたのは、「社会人ではなく、学生」という点だけかな、と。

飯塚：それについては、カウンセラーからも注文がありました。「意識が高く、専門もしっかりしている大学院生」

から、「エコプロダクツに来て初めて企画を知った一見さん」までがごっちゃになっていたから、「受身の学生とは話しづかった」、「知識レベルに差があり、話し方に迷った」などと言われました。もし、今後もエコプロダクツと組んでいくのであれば、企画面での課題の一つになるのではないのでしょうか。

小清水：ただ、逆に絞り込みすぎると人数が集められなくなるのが、相談会の弱点でもあるんです。その意味で、もっと広報をしていく必要がある。人数がたくさん集められるのであれば、ターゲットをもっと明確にできますからね。学生の「質」をとるか、「量」をとるか。

小林：両方取れればいい。

小清水：理想はね。

竹内：それに関連しますが、学生だけで本当に良いのかと思います。社会で人材の流動化が起こり、新卒の3人に1人が3年以内に会社を辞めてしまう、という状況で、果たしてターゲットが学生だけなのかどうか。転職組に広げても良いのではないかと。

小清水：それも検討課題ですね。

### 運営はスムーズだったのか

小林：受付など、運営についてはどうでしたか？

小清水：実行委員長をはじめ全スタッフが高い意識を持って取り組んでいたように思います。成澤さんからは、「マネジメントがしっかりしていた」と言われた。

小林：受付担当のなっちゃん(スタッフの木村さん)からは、受付対応では、「毎日こつこつと対応していくこと」と反省点を挙げていました。何かあったのですかね。

小清水：いや……。あれは大変でしょうね、本当にお疲れ様でした。受付に関しては、エコリーグ事務局がよくやってくれましたね。

小林：おかげで、企画に専念することができましたよ。

竹内：ただ、相談会スタッフの半分は経験者。例えばこれが、イベントを初めてやる、というスタッフだけでも回っていたでしょうか。

小清水：うーん、難しいかもね……。

竹内：無理であれば、そういう人たちだけでもできる仕組みは作れないですかね。

飯塚：正直、どこまで報告しなければならなくて、どこまでそれぞれに任されているのかが分からなかった。マニュアルとは行かないまでも、そういうものは欲しいと感じました。

小清水：なるほど。何度もやっていると、そういう視点は抜けてしまいますね。

### 広報はどうだったか

小林：さて、イベントにおいて最も重要である、この広報においては関連団体への広報は、比較的迅速に行われたのではないのでしょうか。どう思いますか？広報担当の小清水さん。

小清水：最初に、どのMLや団体にはどのくらいの人が

いて、いつまでにどこに広報をする、という広報戦略や、「当日チラシを置いて良いから、広報させてくれ」などの「パーター広報」が比較的うまくいきました。

また、アンケートでは4分の1が「日経の広告を見て」となっているように、エコプロダクツ自体からの参加者もあったようです。

ただ、広報活動は一部スタッフのみの仕事になってしまい、「全スタッフ体制」が図れませんでした。

どなたか、何か付け加えることはありますか？

飯塚：はい。参加者からは、場所の案内が不親切で迷った、という声も聞かれました。次回も同じ場所で行うのであれば、明確にすることはできますよね。

小林：あと、関西でも同日に相談会やりましたが、タイアップはあまり図れませんでした。関東と関西で、もっとコミュニケーションを密にしていく必要がありますね。

小清水：次の開催では、広報の基本計画を策定しましょう。

### 会計はどうだったか

小林：検討課題、結構ありますね（笑）。さて、今回、当委員会の一つの転換点となったのが、会計であると思います。

エコプロダクツ主催者の日経新聞から委託金を受け取り、これまではスタッフ負担であった活動費は、請求額をほぼ満額バックしました。具体的に言えば、交通費、通信費などの経費を初めから予算に加え、隠れたキャッ



シュフローをきちんと予算に計上しました。

小清水：とても良かったと思います。ボランティアといえ、活動経費はできるだけ支払うことを基本に今後も活動していくべきです。

### 今後につなげるべき、成功経験とは何か

小林：会計においてより詳細なキャッシュフローにおける黒字を目指すことが挙げられるでしょう。つまり、スタッフに金銭的な負担をかけない仕組みを作りたい。カウンセラーにも謝礼は十分に払えたのではないかと。

飯塚：カウンセラーと言えば、今まではどちらかという企業と企業の間には問わない呼び方をしてきたと聞いていますが、意識的に大手企業を招聘してもいいと思いました。何より、学生は大手志向ですから、その方が学生にも良いのではないのでしょうか。

小林：まあ、大手じゃなくてもできる、というのが主旨なわけですが、やはり憧れの大手から直接「ウチじゃ一年目からダメ」とか引導を渡してもらった方が納得するでしょうね、学生も（笑）。

飯塚：大手なら、エコプロダクツのネットワークで紹介してもらおうのが楽でいいでしょうね。

小清水：今回も、紹介はしていただいたのですが、今後も、もっと増やしていくのが良いでしょうね。

小林：ところで、相談会の1タームの時間についてはどうでしたか？

小清水：参加者の感想はバラバラですね。ただ、カウンセラーが話す時間としてはちょうど良かったのではないのでしょうか。

### 失敗を繰り返さないための改善点は何か

小林：今まで、多少失敗点も出てきましたが、今後その失敗を繰り返さないようにするにはどうしたらよいでしょうか。

小清水：私が思うに、ターゲットの明確化と広報拡大ですね。

小林：広報については、「広報不足」との声も聞かれています。

小清水：頑張りましょう。（笑）

竹内：カウンセラー集めについては、個人のコネで呼ぶのは継続的ではないとの声もありました。相談会への登録制にしたらどうでしょうか。

小清水：そうすると、新規のカウンセラーを呼びづらくなるんですね。

小林：個人的には、カウンセラーを呼ぶ「指標」を作るのが明確でよいと思うのですが・・・。

小清水：これについては、きちんと話す必要がありますね。

飯塚：事前の入念な見と確認は必ず必要だと感じました。できれば、デジカメで会場を撮って来て、スタッフに見せるなどイメージを膨らませることが重要だと思います。

小清水：それは是非行いましょう。

小林：なっちゃんから、「事前の受付確認メールには、「服装」「開始時間」「値段」（今回はないけど）」「飲食」「交通」の情報を載せること」とありました。この辺は頼りっぱなしでしたからね、是非とも改善点を引き継がないと。

小清水：的確な改善内容ですね。他にも何か言っていましたか？

小林：ええと・・・「まめに道具を整理しておくこと」。後は、「支持出す人は、遅刻するな」と。

小清水：耳が痛いですね・・・。（笑）

## イベントで起きたトラブルと対処、改善策

トラブル	対処	改善策
「シンボ用」と「相談会用」のアンケートの受け渡しミス	企画終了後に一度回収し、配布しなおした。	企画毎にアンケートを作成する際は、明確なレイアウトの違いを出すこと、当日スタッフにきちんと主旨を伝える。
配置図のミス（実際には配置図のように机を並べられなかった）	図と実際の誤差が最小限になるように配置	事前に入念で万全な会場の確認。
パンフレット不足	エコプロダクツ事務局で配置図のみを印刷	多めの印刷（事前受付の1.5倍）

小林：学生とカウンセラーの数のバランスはどうでしたか？

飯塚：学生が集中するタームと、そうでないタームがありました。スタッフが、うまく誘導してあげなければなりません。

小清水：次のタームでお願いします、とか。

飯塚：そうですね。ただ、カウンセラーにも失礼のないようにしないと・・・。

エコプロダクツと連携するメリット・デメリットは何か

小林：そろそろ時間が押してきました（笑）。今後、エコプロダクツ内での開催が増えるのではないかと思います。改めてメリット・デメリットはなんでしょうか？

小清水：メリットから羅列的に挙げてみましょうか。

小林：金銭面で、調達する必要が（あまり）ない。

竹内：カウンセラーは日経からの紹介が4分の1だった。より幅広い人脈の構築に繋がりました。

小清水：広報面でシナジー効果が期待されます。それと、ハード面は全てやっていただいたのが大きい。あとは、カウンセラー集めでしょね。さっき出ましたけど。今までにつながりのなかった分野へ呼びかけていただけなのは、非常に心強い。

小林：デメリットは？

竹内：当日参加者の人数がよめないことでしょうか。エコプロダクツからの参加者が流れてきますから。

飯塚：他企業と連携をしづらい。

小林：これについては、日経ともきちんとしてみる必要はありますね。

竹内：参加者募集の人数的な制約があります。部屋は、あの200人部屋のみでしょうか？

小清水：来年もやるとするならば、あそこでは。

小林：その辺も交渉してみましょう。僕は個人的には、「プレッシャー」がデメリットになるのではないかと。毎回、ある程度は集めなければならない、という。それは、企画よりも広報が最重要課題になってくるということにもなるのではないのでしょうか。

## 今後の展開

小林：では、最後の質問。今後、何かやりたいことを、一言ずつお願いします。・・・小清水さん。

小清水：広報担当をつけ、「戦略的広報」を行いたいですね。広報担当は、広報戦略計画書を提出すること。

小林：それは僕も思います。ハードなどの心配が減る分、その労力を広報に傾けるべきでしょうね。

竹内：カウンセラーに依頼するときに、もっと簡便に行えませんか？

小清水：たしかに、今までは毎回初めから堅苦しい依頼文を送っていますね。

竹内：依頼を効率化できればいいと思います。例えばカウンセラーに登録してもらい、登録者には、「次の相談会はいついつでするので、お願いします」みたいな・・・。

小清水：いいですね、それ。提案してみましょう。

竹内：それともう一つ。カウンセラーのカテゴリについてなのですが・・・。

小林：事前にも何度かもめましたね。人によって、フレームワークが違う。

小清水：そうなんですよね。これについては、カウンセラーのプロフィールをまとめてくれた吉川さん（会計スタッフ）が、ある程度の選択肢を決めて、あとはカウンセラー一人一人に任せていいんじゃないか、と。

竹内：それでいいと思います。

飯塚：相談会については、事前にプロフィールを公開してくれ、との声がありましたけど・・・。

小清水：うーん、それについては難しい問題でしてね。プライバシーの問題になってくるので・・・。小林さんは何かありましたか？

小林：1年に1回のイベントでは終わらせず、恒常的に無理なく何かができる仕組みを構築してみたい。

小清水：ホームページで相談に乗れるような仕組みがあるといいかもしれませんね。ただ、カウンセラーの方々の協力も得られなければならないので、軌道にのせるのは多少の時間がかかるかもしれませんが・・・。

飯塚：私は、「相談会」という形式にとらわれず、例えばある机ではカウンセラーが3人集まって座談会をするなどでもいいと思いました。学生によりよく知ってもらうための手段は、机に向かい合っただけの相談に限りません。そういう意味で、もっとやり方を進化させていってもいいと思います。

小林：本日はありがとうございました。

# 報告・評価

## 各論ーシンポジウム「企業の環境部って何？」

この度の目玉とも言えるシンポジウムは、どのような主旨で行われ、どのような内容だったのかを、担当の飯塚が報告する。また、次ページには参加者アンケートを掲載している。

### パネリスト

- 津田 哲行 氏** 花王株式会社 環境・安全推進本部課長  
**山口 眞一 氏** トヨタ自動車株式会社 環境部企画管理グループ担当課長  
**野澤 一美 氏** 日本IBM株式会社 環境管理・マーケットサポートプログラムマネージャー  
司会  
**田中 啓介 氏** ホールアース自然学校 インストラクター

### 配布資料

- ・パネリスト パワーポイント資料
- ・参考資料「環境部ってなに?!」
- ・アンケート

**1. 企画趣旨** 環境問題に関心があり、環境部で働きたいと思う学生が年々増えている。しかし、環境部が何をやっているかはあまりよく知られていない。その原因は、環境部が他の部署より比較的新しい部署であること、これまで環境部について知る機会が与えられなかったこと等が挙げられる。従って、本企画は、環境部の仕事とはどのようなものであり、実態はどうなっているのか、どのような能力が必要とされているのか、という疑問を企業の環境部で働く方にぶつけ、生の声を聞き、環境部に対する理解を深めることを目的とする。

**2. 主旨** 1、「環境部」への配属は初年度からは難しい。 2、環境マインドを持っていれば、どこでも「環境」はできる。

**3. 内容** 1 自己紹介、2 一般的な業務内容と、一日

の業務内容例、3 新しい取り組み、4 環境部に必要とされる人材、技能、5 「環境部の仕事」を一言で表すと、6 参加者の質問

## 一部内容紹介

前半はパネリストによるプレゼンテーション、後半をパネルディスカッションという形式を用いながら、上記の1～6項目を取り上げました。

プレゼンテーションでは、まず1 自己紹介で、環境部は一般に様々な部署を歴任してから配属される部署であること、一年目からの配属は難しいこと等を伝えるため、各パネリストがどのような経緯で環境部に入ったかをお話して頂きました。学生からは「文系でも環境部へいけるか」という質問が多かったのですが、これについては「大丈夫」との回答を得ました。次に2 一般的な業務内容と一日の業務内容例では、「環境部」の仕事について、会社の環境部全体の業務内容とパネリスト個人の業務内容について紹介して頂きました。さらに最近の環境部の取り組みを、3 新しい取り組みとしてお話頂きました。一般的な業務内容は、環境方針の策定、法規制・協定等の把握・対応、環境情報の開示、環境教育等が共通して挙げられ、新しい取り組みでは、3 社それぞれの特色(分野)がはっきりと出ていました。

続いてパネルディスカッションに移り、4 環境部に必要とされる人材、技能では、「自分にとって今後の課題は何か」を考えるきっかけを学生に与えたいとの思いから、お



津田氏



話して頂きました。回答は、「広い視野を持つために、様々な経験を積むこと、グローバルの視点を持つこと、英語ができること」などが挙げられました。そして5『環境部』を一言で表すと、本シンポジウムの題名でもある『環境部ってなに!?』ということのを最後にまとめて頂き、6参加者の質問を受け、終了しました。なお、パネルディスカッションの内容(一部)は下にQ&A形式で掲載しています。

Q. 新卒1年目で環境部への配属は無理ですか？

A. 無理。環境セクションはあらゆる方面と結びついており、様々な経験を積んでいないと務まらない。

Q. 人文系は環境セクションへの配属は難しい？

A. 環境セクションだけが環境の仕事をしているわけではない。実際、事務処理が多い。しかし、製品の環境負荷を低減する(コストを低減する)ためには、そ



山口氏

## スタッフの声

### ~シンポジウムの企画を担当して~

企画担当者 飯塚知子

目標動員数を優に越え、こちらの意図した内容を参加者に十分伝えることができた。よって本企画は成功であったと言える。

そもそも私自身「環境部」が一体どのような部署であるか不明な点が多かったため、パネリストへの質問は容易に決めることができた。だが、それらの質問に対してどのような回答が得られるかは想像の域を越えることはなく、終了するまで、企画がどのように進行し、最後どうなるのかわからなかった。しかし、当日はコーディネーターの田中氏をはじめ3名のパネリストによる熱いディスカッションが繰り広げられ、参加者の満足を得ることができた。パネルディスカッションはいったん始まると、あとはコーディネーターとパネリスト次第で全てが決まってしまうということを実感した。今回はそれが吉と出た。それに比べ、準備段階での不手際さが浮き彫



野澤氏

の製品のマテリアルフロー(製造工程)を把握していなければ、(比較対照基準がないので)どの工程でどれだけ低減できるか目標値が定まらない。

Q. 本当はやりたい仕事とはかけ離れた部署に配属されても、がんばっている仲間はある？

A. もちろん。現状でがんばることができなければ、環境が変わっても適応できない。

Q. それぞれの会社では、自分が望めばその部署に行くことが可能？

A. 可能。そのためにはネットワークの構築が不可欠(同期、昔の上司など)。自分から積極的に働き掛けを。

Q. 将来「環境部」に配属されるかもしれない者に、何を望む？

A. 英語力・コミュニケーション能力・日本人としての考え方の変革・グローバルな捉え方

Q. 環境部を一言で表すと？

A. 「何でも屋」「舵取り役」。会社の根幹をなす部門として環境部はある。

りになったように思う。同じ質問であっても見せ方次第で印象ががらりと変わってしまう。見せ方が一番重要なのだが、恥ずかしながら、私はそれを自覚していなかった。即ち、質問事項をどう展開させ最後どのような形で終わらせるのかを事前に明確にできなかった。人を楽しませること、人を感動させること、人に物事を伝えること...、これらが如何に難しいかを改めて感じた。そこで、ここでの反省は、次で必ず活かすことが私に課せられた義務であると思う。

最後に、本企画の成功は、相談会スタッフをはじめ、パネリストの方々のアドバイスと協力無しには語れない。お忙しい中ご参加、ご協力頂きましたパネリストの津田氏、山口氏、野澤氏、コーディネーターの田中氏、そしてスタッフの皆さん、本当にありがとうございました。

## アンケート集計結果

1 本企画を何で知りましたか。

1. 知り合いから (61名 41.5%)
2. エコプロダクツ広告 (36名 24.5%)
3. ホームページ (27名 18.4%)  
[エコ・リーグ(5名)、エコ就職ナビ(4)、ASeedJapan(2)、Yahoo!、環境Goo、環境就職相談会(1)]
4. メーリングリスト (10名 6.8%)  
[Jobweb、環境Goo(2)、jt22、エコ就職ナビ、なかえこ、エコリンク、サークル(1)]
5. イベント (1名 0.7%)
6. その他 (12名 8.2%)  
[学校の掲示板、Yahoo!(3)、エコリーガー(2)、エコプロダクツDM、青山パートナーシッププラザ・エコナビメールマガジン(1)]

「知り合いから」が約4割を占め、「エコプロダクツ広告」が約4分の1、そして各種webサイト等の電子情報によるものが続きます。面白いことに、大部分が「人から人へ伝える」という最も原始的な広報であり、電子情報によるものは全体の約3割に留まっています。しかしこの結果は、ITの波が情報伝達にも着実に浸透していることを表していると見ることができ、今後も引き続きホームページやメーリングリスト等を利用した広報を行っていきたいと思います。

2 現在、サービスを受けている就職支援ツール(複数回答)

1. リクナビ (120名 81.6%)
2. 毎日就職ナビ (76名 51.7%)
3. 日経就職ナビ (73名 49.7%)
4. 学情就職NAVI (19名 12.9%)
5. メガジョブ (17名 11.6%)
6. みんなの就職活動日記 (7名 4.8%)
7. エックスジョブ (6名 4.1%)
8. 就職コンパス (5名 3.4%)
9. Yahoo!求人情報 (4名 2.7%)
10. アクセス就職ナビ、就活ポラリスLEAD、IBAC Career Web(2名 1.4%)
11. その他 (17名 11.6%)

「リクナビ」が全体の8割を占め、続く「毎日就職ナビ」、「日経就職ナビ」は約半数、以下、その他の就職支援ツールの利用者は1割以下です。ほとんどの就職活動生が「リクナビ」を利用しているようです。

3 「環境問題に取り組んでいる企業」と聞いて、どこをイ

回答者数 n = 147

～アンケート内容～

- 1 本企画を何で知ったか
- 2 現在サービスを受けている就職支援ツール(複数可)
- 3 「環境に取り組んでいる企業」と聞いて、どこをイメージするか(複数可)
- 4 印象に残った言葉・話・キーワードは何か(箇条書き)
- 5 開催時期、時間配分、企画についての意見・アドバイス

メージしますか(複数回答)

1. トヨタ自動車 (74名 50.3%)
2. リコー (22名 15.0%)
3. IBM (12名 8.2%)
4. キヤノン、NEC (7名 4.8%)
5. 花王、ホンダ自動車 (6名 4.1%)
6. 日産、サントリー、イオングループ (5名 3.4%)
7. SONY、アサヒビール、パタゴニア、荏原製作所 (4名 2.7%)
8. 富士ゼロックス、王子製紙、資生堂、コスモ石油、損保ジャパン、住友林業、栗田工業、3m、環境管理センター (2名 1.4%)
9. その他 - 38名 25.9% [シャープ、EPSON、富士通、三洋、日立製作所、INAX、サッポロビール、麒麟ビール、生協、カゴメ、ワタミフード、セブン・イレブン、東レ、コクヨ、積水化学、川鉄、日興コーディアル、朝日新聞、日水コン、クボタ富士フィルム、NTTファシリティーズ、オルビス、DENSIO、イケア、ホテルニューオータニ、リブラン、扶桑レクセル、三菱商事、環境省、その他]

トヨタ自動車ダントツで、2位リコーの約3倍の人数を獲得しています。以下、IBM、キヤノン、NEC...等が続きますが、圧倒的に「製造業」が挙げられています。これらの要因としては、非製造業に比べると製造業の方が環境との結びつきをイメージしやすいことやテレビCMや広告が大きく展開されていること等が挙げられます。今回のシンポジウムでお呼びした企業も全て製造業でした。今後は、まだあまり浸透していない「非製造業の環境への取り組み」についても、紹介する機会を設けられればと思います。

4 印象に残った言葉・話・キーワード

ここでは、大きく6つに分けられました。以下、回答数の多かったものから順に挙げています。

「グローバルな視点を持つこと」

・様々な人々とコミュニケーションをとる手段としての英語・環境を手がけていくには、広い視野とマネジメントスキルが必要・さまざまな人と一緒に仕事ができないといけない・日本人の考え方を考える・現地の人も信頼関係を気付くことが大事

「企業と環境・環境はビジネスそのものである」

・ビジネスボリュームを上げる環境ブランド・環境が企業の儲けにつながっている・環境事業は会社経営の根幹である・環境対策と企業のつながり・環境イメージがビジネス

スにつながる・企業は環境ビジネスを全面に押し出している・環境ビジネスをやる上では今はとてもいい時代

#### 「環境部の実態」

・環境部は初め(一年目、新卒)から入れない・環境部への配属は、他の部門を経験した上でなされていることが多く、またそれが必要である・環境部は取りまとめ部署・環境部の企業における役割「環境部は会社の舵取り役」・環境部は何でも屋・環境部は調整役・環境部と他の部署は網目状に繋がっている・「環境」が全社の核となりつつある・環境部だけが環境をやっているわけではない・環境部はグローバルな問題を抱えている・環境法への対応・環境事業部の人数が意外と少ない

#### 「環境の仕事は必ずできる」

・意識をもって他の部署でも仕事をする・就職してからも「目的」を持ち努力を続ければ、環境関連の仕事ができる・環境部に配属されなくても環境はできる・環境は多方面よりアプローチできる・やりたいことは必ずどこかで繋がっている

#### 「その他」

・商品自体が社会貢献である・マーケット(消費者)のニーズと環境・企業は「環境を守るために」活動しているのではない・国内外での環境活動評価にはずれがある・生活習慣をつける・コミュニケーションが大事・公害処理は闇の部分・がむしゃらに働く・配属された部でやれることをやるう・ISO14001・EMS・マネジメント・IT化・アセスメント・環境教育・Think Globally Act Locally!・持続的・ネットワーク・社会貢献・社会的責任投資

まず、「英語が必要」という回答が一番多く見受けられました。これは、ディスカッションでの「将来、環境部への配属の可能性のある学生に何を求めるか」という質問に対して、パネリスト達が「地球規模での広い視野を持つこと」の必要性を語り、そのためにもまず英語が必須であるとおっしゃられていたことが、学生に響いたようです。

次に「企業と環境との関わり」については、これまで、環境活動は企業にとって敬遠されがちだと言われていましたが、現在では、その環境活動が大きな利益を生み出すとの見方が主流になっています。しかし果たして実際はどうか?そんな疑問を抱いていた学生にとって、第一線で働くパネリスト達の生の声は説得力があったのでしよう。続いて、「環境と仕事」についての感想です。「環境部の実態」を取り上げることが今回の趣旨であったことから大変興味深い項目ですが、「初年度からの配属は難しい」という主旨1、そして、「環境部以外の部署でも環境の仕事はやれる」という主旨2を、参加者に十分伝えられたようです。欲を言えば、環境部の仕事内容に関してもう少し感想が得られれば良かったです。

#### 5 意見・アドバイス

##### 良い点

・非常に濃い内容で、聞きたいこと、痒いところに手が届く会であった・個人にクローズアップされていたのが

よかった・質問を事前に集めており、的確な質問をしてくれたのが良かった・レジュメがあったのでよかった・学生が多くて話がききやすい環境だった・コーディネーターが大変よかった

##### 悪い点

・こちらからの意見を聞いて欲しかった・質問時間が少なかった・プレゼンテーションの内容を面白くしてほしい・プレゼンテーションの時間が短すぎる・もっと迫った具体的な話がききたかった(一般論的)・いまいち・環境をもっと中心に考えて活動している企業もあるはずである。「大手」を知りたいのではなく「時代」を読める企業を出して欲しい・メーカーだけではなく、環境教育関連に携わっている企業の話も聞ける機会が欲しい・研究・開発の話が聞きたい・もう少し参加企業を増やしてもらえらるともっと多方面から見られる

「大変良かった」とほとんどの方に満足して頂けましたが、実際には、いまいちだったというご意見も頂きました。

企画に求めるものが個人によって異なることはやむを得ませんが、やはり一人でも多くの方に満足して頂きたいものです。しかし、幅を広く持たせようとするとうとう内容が薄くなってしまいます。逆に、内容を絞りすぎても参加者を得ることができません。その折り合いをどうつけるかが大変難しいところです。

時間に関しては、限られた時間の中で大変多くのことを伺え、話の内容と時間という点ではこれがぎりぎりのラインかと思われました。しかし、パネリスト達の話した時間に対して、会場からの意見・話を採用する時間が圧倒的に少なかったことは(たった一名だけでした)、深く反省しなければなりません。つまり、学生が受身でしか参加できなかった点を改め、もっと能動的に参加できる会を作る必要があります。

##### 改善点(全体)

・会場がわかりにくかった・会場が狭かった・受付は外が良かった・受付をスムーズに(web事前受付をする際、入場券のようなものをプリントアウトさせて持参させてはどうか)・広告内容の充実化・広報の拡大(webのみならずポスター、大学での広報等)・開催時期を早めること(夏休み、11月)・開催回数を増やすこと・朝早い(遠方から来るため)・昼休みが短い・時間は全体的にゆとりが欲しい・エコプロの展示も見たいので休憩時間を増やして欲しい。二日間に分けたらどうか・パネラリストのお茶に、ペットボトルと紙コップを使うのはやめるべきである(せめて缶を使ったほうがよい)・スタッフが動きすぎる・アンケート配布ミス・段取りが悪い・第二部をもっと大規模で行って欲しい

会場等の物理的な改善は、実行委員だけでは解決できませんが、受付方法や飲料水に関してはすぐに改善したいと思います。開催時期や回数に関しては、これまでも議論の対象となっていますので、引き続き検討を重ねていきたいと思ひます。

# 報告・評価

## 各論——環境就職・進路相談会

環境就職進路相談会の報告を、参加者アンケートとカウンセラーアンケートの結果を中心にして行う。カウンセラーの具体名などについては、プライバシーの問題もあるため、特別ここには掲載しないことにする。

回答者数 n = 69

### ～アンケート内容～

- 1 本企画は何でお知りになりましたか
- 2 現在サービスを受けている就職支援ツール(複数可)
- 3 今回のカウンセラー以外で話を聴いてみたいカテゴリは何ですか
- 4 印象に残ったカウンセラー、またはコトバは何か
- 5 開催時期、時間配分、企画についての意見・アドバイス

### 配布資料

- ・カウンセラーリスト
- ・カウンセラープロフィール
- ・アンケート

## アンケート集計結果

### 「参加者」

1、本企画は何でお知りになりましたか

- 1、メーリングリスト 4名(エコナビ、エコリンク、ムーブメント、エコ就職ナビのメルマガ)
- 2、ホームページ 10名(YaHoo!求人情報のBBS(4名) 環境就職、エコリーグ)
- 3、イベント 1名(YES!)
- 4、エコプロダクツの広告 18名
- 5、知り合いから 33名(環境省の岡崎さんなど)
- 6、その他3名(会場で、日経のエコプロ案内メール)との回答がありました。

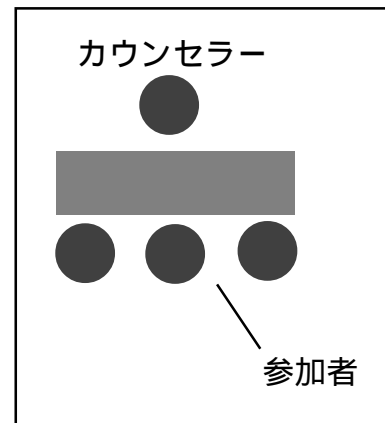
興味深いのは、5が多いこと。「その知り合いは何で知ったか」が知りたいわけですが。学生同士の口コミ、友達を誘っていく、というケースが多いということでしょう。続いて、エコプロダクツの広告。比率からして、4分の1、つまり参加者200名のうち50名は日経の広報の結果ということになります。

ちなみに、1のムーブメントは組織の名前、3のYES!はエコリーグ等の企画名です。

### 環境就職進路相談会の形式

環境に携わる各業界・業種の社会人がカウンセリング形式で、学生の就職や進路上の相談に乗る企画。

およそ4時間を5タームに分けるので(1ターム/45分)数名のカウンセラーの相談が受けられる。



2、現在、サービスを受けている就職支援ツールは何ですか(ただし、シンポで回答した人は記入していないこともあり・複数回答可)。

多い順に、

- 1、リクナビ(59名)
- 2、日経就職ナビ(28名)
- 3、毎日就職ナビ(27名)
- 4、エクスジョブ(7名)
- 5、その他(5名、EcoJob、JobWeb)
- 5、メガジョブ(5名)

## カウンセラーリスト

環境省、資源エネルギー庁、農林水産省、廃棄物・リサイクル関連、温暖化、エネルギー、環境ラベル・森林認証・LCA、農林業・食品、環境教育、環境コンサルタント（全般・環境計画・アセスメント・ISO認証）、環境分析、環境NGO・NPO、自然保護、ベンチャー・起業、国際関連、メーカー、情報・出版・広告、商社、流通、金融など、およそ50名

- 5、学情就職NAVI（5名）
- 8、YaHoo! 求人情報（4名）
- 9、就職コンパス（3名）
- 10、みんなの就職活動日記（2名）
- 11、アクセス就職ナビ（1名）
- 11、就活ポラリスLEAD（1名）

という結果になりました。

**リクナビ強し！！何かしらの記入があったアンケートでは、98%くらいはサービスを受けているみたいです。続いて、日経就職ナビ。次回以降の広報は、どちらかのサービスに掲載することができれば、他に何もしなくても集まりそうです。**

3、今回のカウンセラー以外で話を聴いてみたいカテゴリーは何ですか。

- ・食品・飲料メーカー（7名）・出版（4名）・不動産、ディベロッパー、住宅（2名）
- ・コンサルタント（2名）・IT業界（2名）・国立環境研究所（2名）

あとは1名で、

音楽機器メーカー、電力、国際援助NGO、人材育成、金融、外食産業、化粧品業界、気象（庁、民間）環境教育、NGOをもっと、リコー、UNEP、海洋（コンサル、漁業）、全体的に生産・商品開発

となりました。

**「食品」が多いのは、質問に、「例：食品メーカーなど」と書いてあったからだと思います。次回は、出版、IT、国環研、人材育成などは検討してみても良いかもしれません。クエスチョンだったのは、コンサルタント、環境教育です。あったのに。**

4、印象に残ったカウンセラーは、また、印象に残った言葉など

まずは、カウンセラー（ ）内はその人からの話）です。

- ・Sさん@保険業界
- ・Iさん@環境分析業界（分析の他に地域住民との接触も業務内容にあること、小手先の知識なんて後で身に付く）

・Fさん@コンサルタント業界（学生で学んだ知識は役に立たない）

・Kさん@行政関係

・Yさん@コンサルタント業界

・Hさん@リサイクル業界（リサイクルが商売になっている）

・Kさん@行政関係（自分と同じようなことを考えていた）

・Tさん@マスコミ関係（コンテンツの中身でいいものができれば数字は取れなくても残る）

・Aさん@行政関係（都市農業への熱い思い）

・Aさん@農業関係

・Oさん@行政関係（印象として熱い方だと）

・Tさん@環境教育業界

・Kさん@行政関係

・Mさん@シンクタンク業界（環境分野に就職して後悔しないように、自らの研究分野にあったヒートアイランドでのお話）

・Mさん@自動車業界（環境をベースにやりたいことを持つこと）

・Mさん@NGO（NGOに求められていること、人材についての話が分かりやすかった）

・Yさん@コンサルタント業界

・Sさん@起業

**満遍なく、皆さん素晴らしい話をしていただいたということですね。人選や分野については、特にアンケートを読んでいる限り問題を感じませんでした。次回は、学生一人一人の回った履歴を書いてもらってもいいと思いました。**

続いて、印象に残った言葉です。

・何をしたいのかが明白に持っているというのは受けた・どの会社に行っても今想像しているような仕事はできないかもしれないけど、何かしらの環境には携われる。・英語は大切・環境はビジネスにはならない！環境だけではダメ！・具体的な話、裏話・プロとしての意識を持つ・環境関係の仕事を行うには、まず現場の仕事そして現場を理解してからじゃないとできない。

との回答がありました。

## 相談会

ここには書きませんでした、良い話が聞けてよかったという意見もちらほらとありました。

### 5、何か意見・アドバイスがあればお書きください。

- ・午前中からやって欲しい、時間配分は十分です。
- ・よかったと思います。
- ・時間的に少なかった、いくつかまわりたくてもまわりきれない面があったのが残念。
- ・もっと長時間にしてください。
- ・短く感じましたが、たくさんの方とお話のできたので良かったです。数日間の開催を希望します。
- ・もっと回数を増やして欲しい。
- ・シンポの内容がいまひとつ。多様なカウンセラーの方がいてとてもためになりました。貴重な機会を下さり、ありがとうございました。
- ・大変ですが、もっと話したかったです。
- ・内容・カウンセラーに関する情報を事前にもらえたら質問を考えられてより良いと思いました。
- ・興味の程度によって40分が長い場合も短い場合もある。
- ・もっと時間が欲しい。何日間もやって欲しい。
- ・30分はちょうどいいと思った。
- ・時間が少なかった。1日欲しい。
- ・時期は良いと思う。もっと多くの人と話をしたかつ

た。セット数を多くして欲しかった。

- ・休憩が長くて、もっと喋りたかったです。
- ・時間は1ターム20分くらいでもっとたくさんの方に話が聞きたかったです。

「大変良かった」関係は、上記以外にもまだありました。まとめると、「もっと日数を、もっと時間を、もっと回数を」ということみたいです。カウンセラーの回答には「時間はちょうどよかった」が多かったのに比べ、その辺は学生とギャップがあるようです。「話す側」と「聞く側」という差だと思います。

また、学生には、「話をじっくり聴いてみたい」という人がいる一方で、「とりあえず色々な人に聞いて様子を伺いたい」という二タイプがいるようです。日経には、この辺の意見を特に見せましょう。相談会のニーズはこんなにあるんだよ、と。でも、「来年は毎日やってください」なんて言われるかもしれません。



## 参加者の声

### 二つの気づき

大学で環境問題について学んでいることもあり、卒業後は環境問題の解決に関係する職場で働くこと、つまり環境就職を考えていました。しかし、自分の考えに具体性が無く、これから先どう方向付けをしたらよいか行き詰まっていました。そんな時、この「環境就職相談会」というイベントの話を知人から聞き、何かヒントが得られるのではないかと思い参加しました。

会場では、様々な分野の人たちが、それぞれの立場から話をして下さいました。自分がなぜこの仕事を始めたのか、どんな事を今しているのか、これから先どうしていきたいかなど。僕は、環境問題という一つのkey wordからこんなにも多くの分野の人たちが集い、こんなにも多くの考えが存在することに感動しました。

山形大学教育学部 阿部達矢

僕の考えに欠けていたもの、それはこういった立場から環境問題にアプローチしたいかという部分だったと思います。このことは、逆に自分次第でどんな分野からも環境問題には取り組むことができるということではないでしょうか。「環境就職相談会」は、僕にこのことを気づかせてくれました。



# アンケート集計結果 「カウンセラー」

回答者数 n = 22

～ アンケート内容 ～

- 1 相談会に参加されていかがでしたか
- 2 学生と話して感じてしたこと、又は学生に足りない視点・考えなどがあればお書きください
- 3 次回以降のシンポジウム等のテーマでご提案があれば
- 4 相談会実行委員会スタッフの対応はいかがでしたか
- 5 一回の相談会の時間についてはいかがだったでしょうか
- 6 次回もこのような企画があったら、都合がつけばご協力いただけますか
- 7 何かアドバイスがございましたらどうぞ

## 1、相談会に参加されていかがでしたか

・「いい刺激になった」、「自分を見つめなおすきっかけになった」と回答した人がほとんどでした。この結果から、相談会は学生のみならず、カウンセラーにとっても有意義なものであると推測できます。

・「学生にちょっと失望した」と回答した人はいませんでした。

・「疲れた」と回答した人は3名いました。

## 2、学生と話して感じてしたこと、又は学生に足りない視点・考えなどがあればお書きください

1、「環境」の視点だけで仕事を選ぶのは危険かな、と思った。

2、受動的（仕方がないかも）

3、個別の知識はあるが、環境問題の全体像が見えてない人が多い。

4、就職に対する考え方が少し甘いと感じた。まだ漠然としているとも。

5、自分で調べれば分かることまで聞いて来るので時間がかかってしまう。

などの指摘がありました。特に「5」については、運営サイドでも、ホームページにFAQを掲載したりして、学生の予備知識の向上に努める必要もあるかと思えます。

一方、それに対して、

1、しっかりとしていたので安心。

2、自分の学生時代より勉強されている方が多いのにはびっくりさせられた。

3、皆さんそれぞれは思いがあって素晴らしいと思う。

4、皆さんよく考えていると思う。

などの意見もありました。

まとめると、「意外ときちんと考えてはいるが、仕事をするにはまだまだ甘い」と言ったところでしょうか。また別に、

・あまりに状況の異なる人が一度に来て、話す内容に困ることがありました。（学部三年生とポスドクなど）

との指摘もありました。これについては、要検討課題であると思えます。

## 3、次回以降のシンポジウム等のテーマ等でご提案などがありましたらお書きください。

1、社会全体の中での、各職業（取り組み）の位置づけが分かるようなもの。

2、環境部門・課門など

3、基調講演なども併せてあるといいなあと感じました。

4、カウンセラーに文系が少なかったかも。

といった回答がありました。1～3からの結論は、カウンセラーに今回の相談会の全体像が伝わっていなかったということだと思います。つまり、午前中のシンポジウムの話が伝わっていなかった。カウンセラー用に、一部・二部両方の当日資料を組んでおく必要がありました。今回は、カウンセラーに関係のない企画があっても（シンポとか）完成版の資料を渡しましょう。

## 4、相談会実行委員会のスタッフの対応はいかがでしたか

「あまり良くない」又は「悪い」と付けた人は一名でした。その理由として、「忙しかったのでしょ」とありました。

## 5、一回の相談会の時間についてはいかがでしたか

半分以上の方が「適当」と回答しました。また、3名の方が短い、と回答しました。1タームは30～40分が適当だということでしょうか。

## 6、次回もこのような企画がありましたら、都合がつけばご協力いただけますか

協力したい、と答えた人が半数ほどでした。その他は、「どちらともいえない」（2名）または、無回答でした。

## 7、何かアドバイス等がございましたら

1、机の間が狭く、もう少しゆったりした感じの方が



カウンセラーの声

なにを提供できるかを明確に

環境リレーションズ研究所 鈴木 敦子

「環境に興味があり環境関連の学問や活動に携わっていて、それらを活かした仕事に就きたいと願う学生が多い」にも拘わらず「これらの経験を活かせる(または活かすことのできる可能性のある)仕事にはどのようなものがあるのか?企業があるのか?に関わる情報は極めて少ない。」

今般環境就職相談会にカウンセラーとして参加して痛感したのはこのギャップである。

私が話した学生たちは揃って「どこにいけば環境関連の仕事につくための情報が得られるのか?」という内容の質問を投げかけてきた。彼ら曰く、就職課や就職関連の情報誌、コンサルティング会社も、財務、マーケティング、法務、株式公開等さまざまな専攻に対応する職種を取り扱っているものの、環境に関するものは非常に少ないらしい。独立した環境関連学部の歴史が浅い為か、あるいは環境に関わる仕事の範囲が余りにも広すぎるためであろうか。

勿論、新卒採用で企業が配属を考えると、すべてが被採用者の思惑通りに進めるわけもなく、ど

のようなジャンルであろうとも希望通りにいかないというのは常であるが、それにしても「環境」というジャンルに関しては希望の職種に近づくための情報があまりにも少ないのではないか。

国をはじめとする公的機関が環境政策に、企業が環境マネジメントに傾注する昨今、これらを担うべく若い人材が惜しくも放置されてしまうというような状況は改善されるべきであろう。少なくとも環境に職として携わることのできる可能性に関連する情報は広く提供されるべきだと思う。これらの情報環境がととのって、ようやく学生たちは「環境」でなにをやるのか、やれるのか、をもっと具体的に考えるようになる。

翻って学生たちには、「あなたは環境におけるビジネスの土俵でなにを提供できるのか?したいのか?」これを明確に表現することを提言した。環境ビジネスなどという定義はもともと曖昧で、「環境の仕事に就きたい」という言葉には説得力がないということ、彼らが少しでも感じ取ってくれたなら幸いである。

- 2、最初にカウンセラーの紹介をしては?
  - 3、今日は入れ替え制になっているので学生にとっては良かったと思うが、ちょっと疲れました。
  - 4、プロフィール集は、事前に参加者に周知した方が良い。
  - 5、エコリーグのアピール不足。
  - 6、相談会後のつながりの維持。
  - 7、出来れば就職という言葉を外した方が良い(会の目的が就職活動ではないにしろ、誤解を招くと思いません。)
- との回答がありました。
- 2については、時間があれば、というところでしょうか。プロジェクターが使えるのであれば、一人ひとりの紹

介を企画とは独立して流しっぱなしというのでもいいかもしれませんがね。4については、どちらにせよ、見ない学生は見ないし、周知のメディアを考慮する必要がありますね。5については、こちらの目標人数は達しましたが、まだまだ社会アピールが足りない、というご指摘でしょうか。6については、「年に一度の相談会というイベント」からの脱皮、というか、恒常的なキャリアカウンセリングを行う組織になってもよいのでは、という提案と取りました。7については、もっともな意見ですね。ただ、「環境進路相談会」では、進学と混同しますので、「仕事」という言葉をどうにか入れたいです。

全体として、カウンセラーの受けはよかったです、検討課題はありとの結果になりました。

広報先一覧

エコリーグ関連

エコリーグ会員、環境サークル・団体など(約90団体)、Youth x Earthスピーカーズツアー、学生環境大会、ECO2000、EcoLink、環境政策ネットワーク、エコ学園祭ネットワークなど

学生支援及び学生団体等

ETIC、AIESEC、慶應環境学生会議  
就職活動をしている学生への広報  
JOBWEB、BOX Cafe、デキタン、エコ就職ナビ  
各種環境系ホームページでの広報  
EIC ネット、エコナビなど



# 次回 予告

(予定)

**エコプロダクツ2003にて開催予定！！**

今年12月に東京ビッグサイトで、環境就職・進路相談会 inエコプロダクツ2003を開催予定。参加者・カウンセラーを募集しています。  
詳しくは、エコリーグもしくは環境就職相談会ホームページまで。

[www.eco-2000.net](http://www.eco-2000.net)  
[www.geocities.co.jp/Berkelley/1904](http://www.geocities.co.jp/Berkelley/1904)

## STAFF

実行委員長	竹内 寿浩
副実行委員長	野口 朋子
事務局長	小林 功英
シンポジウム担当	飯塚 知子
	松原 啓介
カウンセラー担当	竹内 寿浩
	櫻井 立真
会計	吉川 紀子
受付	木村 奈津子
広報	小清水 宏如
ホームページ	近藤 大介
報告書作成	小林 功英
エコリーグ環境就職進路相談会担当理事	小清水 宏如

## Special Thanks

エコプロダクツ2002事務局ご担当様、広告社ご担当様、パネリストの皆様、カウンセラーの皆様、エコリーグ事務局の皆さん、えこみゆにけーしょんスタッフの皆さん、参加者の皆さん

### 主催団体エコリーグとは

エコリーグは、環境問題について考え、話し合いたい、何かしたい、情報を得たい、等、様々な想いをを持った人々にとって、探し求めるものを見つけることのできる「場」であることを目指し、活動しています。

### 環境就職進路相談会 実施報告書

2003年2月25日発行

編集責任者 小林功英

問い合わせ エコリーグ事務局

URL: [www.eco-2000.net](http://www.eco-2000.net) MAIL: [sodankai-center@freeml.com](mailto:sodankai-center@freeml.com)

本報告書の記事・写真等の無断転載を禁じます。